

地域社会との密接な連携を築こう

ふるさとの自然の素晴らしさを感じ取り，地域の文化を継承しよう

北設楽郡豊根村立豊根中学校 P T A

1 学校の概要と P T A 組織

北設楽郡豊根村は，愛知県北東部に位置し，東は静岡県，北は長野県と接していて，人口はおよそ 1, 2 0 0 人の小さな村です。豊根村は，愛知県内唯一のスキー場である茶臼山高原スキー場や昨年リニューアルオープンした道の駅グリーンポート宮嶋，兎鹿嶋温泉「ゆーらんどパルとよね」など，豊かな自然が実感できる観光名所が数多くあります。

豊根中学校は，平成 2 7 年度，富山中学校と合併し，村内に 1 つの中学校となりました。また，豊根中学校は，寮を併設しています。ほぼ全校の生徒が寮での生活を送っています。生徒たちは，学校生活では，生徒会として，志高寮では，自治会として，それぞれ，学校生活，寮生活がよくなるよう行動しています。

本校 P T A は，会員数 2 4 名（生徒 2 8 名）です。役員 1 0 名（教師 3 名を含む）で構成し，全会員が施設・体育委員会と研修・広報委員会に分かれ，会合や活動に積極的に参加し，充実した活動が行われています。

本稿では，豊根中 P T A の特色といえる鮎体験・川遊び活動の概要と様子を紹介します。

2 鮎体験・川遊び活動

(1) ねらい

- ・豊根地区で夏の風物詩として行われてきた「鮎の引っかけ漁法」「鮎料理」「川遊び」を体験することによって，ふるさとの自然の素晴らしさを感じ取り，地域の文化を継承しようとする気持ちを高める。
- ・食育の一環として，大入川で育つ鮎を捕らえて調理し，親子で楽しく豊根の夏を味わう。

(2) 参加者

生徒 2 8 名・保護者 2 4 名・職員 1 8 名・漁協関係者（ヤナ組合・大入川漁業組合役員）

(3) 活動の概要

「鮎の引っかけ漁法」は，豊根地区で夏の活動として行われてきているものの生徒たちのなかで経験している子たちはあまり多くありません。また，夏の期間に「川遊び」を楽しむ子たちも少ないです。子どもたちのなかには，この機会が唯一の経験となっている子も多いです。

午前中，校地の運動場と周辺の草刈り等を児童生徒と保護者で行う親子美化作業を実施しました。P T A のほぼ全会員が出席し，校舎周辺がとてもきれいに整備されました。作業終了後，村内にある大入川ヤナ場へ移動しました。

ヤナ場では，ヤナ組合，大入川漁協の方が，ご好意で鮎の味噌汁や塩焼きを用意してくださいました。また，P T A の担当者が事前におにぎりを 1 5 0 こ握っておきました。

鮎体験・川遊びでは，まずは，ヤナ組合，大入川漁協の方や P T A の担当者に用意していただいた昼食を食べ，その後，「鮎体験」や「川遊び」を行いました。



【鮎体験・川遊びの会場 築場】

(4) 活動の様子

まず、おにぎりと鮎の味噌汁、鮎の塩焼きをいただきました。「塩焼きも味噌汁も、おいしいですね。」本年度転校してきた3年生の生徒も初めて食べる鮎料理に満足しているようでした。また、豊根村で生産されたきゅうりやトマトもいただきました。「地元の食材で、これだけおいしいものがあるところが豊根のすごいところだよ。」と話す保護者の方もみえました。子どもたちも笑顔で大満足の様子でした。

今年は、雨続きで、水量が多く、濁っていたため、「鮎の引っかけ漁法」を体験することはできませんでした。しかし、地域のニジマスの養殖をされている方から、ニジマスを提供していただき、網で仕切った場所に放流していただくことができたので、「魚つかみ体験」を行いました。

また、「川遊び」も存分に楽しむこととしました。「川遊び」では、前日の雨で水量が多く、流れも速く、水も冷たかったのですが、生徒たちは、元気いっぱい川の中を遊んでいました。午前中に行われた親子美化作業で流した汗を、清らかな大入川を泳ぎながら流しました。

また、この日は豊根を訪れているサウジアラビアの留学生の方も一緒に参加されました。サウジアラビアと豊根村の交流は、愛・地球博のフレンドシップ事業からスタートし、今年で12年目になりました。豊根中学校の国内研修では、サウジアラビア大使館を訪問させていただいています。サウジアラビアの留学生の方も、川遊びをしたり、鮎の塩焼きなどを食べたりして、豊根の自然を満喫されていました。生徒たちが、サウジアラビアの方と水をかけあう姿も見られました。

生徒たちは、「プールと違って流れがあり、ちょっとこわいなあ。」「めったにない川遊びの機会。きれいな水はぼくらの誇りです。」と自然と親しみ、地域の自然に誇りをもつ感想をもっていました。

また、大入川漁協組合長さんからは、「子どもたちの心に、故郷の清流で遊んだ思い出がいつまでも残ってくれればうれしい。」というお言葉をいただきました。

3 まとめ

P T A行事である鮎体験・川遊びの活動を通して、地域の文化として継承されている「鮎の引っかけ漁法」「鮎料理」「川遊び」を体験することで、地域の自然、文化に誇りをもつ子どもたちの姿が多く見られました。今後とも、地域に誇りがもてる子どもたちを育てていきたいと考えています。



【豊根村の野菜に舌鼓】

川遊びを楽しむ豊根中の生徒＝豊根村下黒川の大入川で

山の清流で夏の思い出

豊根中生ら水しぶき歓声

豊根村下黒川の大入川に設けられたヤナ場。川に遊びに来たヤナ場。生徒たちは元気いっぱい。シャツのま。この日は、村を訪れているサウジアラビアの留学生七人も飛び入りで参加し、川に飛び込んで大はしゃぎ。電気が流れるカーセム・スウエティさん(む)は「山も自然も美しい。村の皆さんも親切。豊根は第一のふるさとになりそう」と話した。

ヤナ組合と共同でアユの塩焼きなどを振る舞った大入川漁協の林頼治組合長(む)は「子どもたちの心に、故郷の清流で遊んだ思い出がいつまでも残ってくればうれしい」と、山々に響く歓声に目を細めていた。

(鈴木素彦)

【中日新聞より】